



芳滝 仁
議員
(拓政会)

問 平成20年に策定した「第5期幕別町総合計画」は、本年で

前期5年が終了し来年より後期（5年）に入る。地場産業の振興はもとより企業誘致に力を入れ、雇用を促進することは周知の通り大きな課題である。以下何う。

①近年地場産業の振興では補助制度の拡大等で成果があるが、企業誘致は進んでいない。法人税収入が音更町は約3億円、芽室町は約2億2千万円、幕別町は約1億5千万円である。トップセールス等積極的な展開が必要である。

②産業振興・企業誘致には、積極的な情報収集や異業種間の交流・情報交換が必要である。商工会やJAの青年部の立ち上がりはあるが、町としてこの分野に予算を取り積極的に推進すべきである。

③フードバレーとかちとの連携は、④産学官の連携は以前からも課題になってきている。畜大は本年「産学官連携的活用室」を作り、大手

問 地場産業の振興と企業誘致、雇用の創出、促進について

答 町が発展する上で重要な要素となるものと認識している

パン業者との連携等積極的である。動き出すべきと考える。

⑤第5期総にアグリビジネスの創出がある。幅広い農業関連ビジネスで今後注目すべき分野である。積極的な取組みを求める。

町長 ①現況の企業誘致の施策は、なかなか厳しいものがあるのが現実であり、私は農業関連を中心に、何とか幕別町に企業の進出を、新たな工場や事務所の進出を期待し、いろんなルートを通じながら、誘致活動を進めている。私が直接出向いて顔を見せるとい

ことは、大きな効果にもつながっていくので、ルートづくりのきつかけとなるよう情報収集し努力していきたい。

②異業種交流は、人材育成はもとより、農商工連携や6次産業化など、地場農産物の付加価値向上や新たな産業の創出など、さまざまな効果が期待されることから、町

としても適宜、必要な支援に努めていきたい。

③地場農産物を活用した食品加工・製造や農業機械製造業の誘致・集積を目指す点において、フードバレーの目的と合致するので、フード特区などの国の支援制度の周知を初め、町の優遇措置や融資制度の活用を通して、事業化の支援に努めていきたい。

④畜大とは具体的にまだ接触はしていないが、一番大事なのは研究開発をして、それを商品化し、実用化していくことが必要だと思っている。その中で、まず我々としては、地元の商工業者からどんなものを目指したいのか、どういう製品、物づくりをしたいのかといった情報を聞きながら、それを大学や北海道十勝圏地域食品加工技術センターに持ち込んで、相談しながら、まずは調整役を果たし、ある程度熟してきたら、組織体として連携を図るような形に持って



異業種交流若者の集い設立総会の様子

いきたいと思っている。

⑤本年度から実施した「農村ホームステイ事業」では、苫小牧市の中学生や、大阪府立の高校生受け入れ、69戸の農業者宅に宿泊をしたところであり、今後のアグリビジネス事業創出のきっかけづくりになればと期待している。

フードバレーとかちの取り組みの中でも、新商品に係るイベントが実施され、十勝全体の取り組みへの参加も含め、農業関連産業の創出に引き続き取り組み、関連事業の視察等も行い、十分研究をさせていきたい。